

## B10b 西はりま天文台「なゆた望遠鏡」の運用

伊藤 洋一, ほか西はりま天文台スタッフ (兵庫県立大学)

西はりま天文台は、日本最大口径の光学望遠鏡「なゆた望遠鏡」を主力機器として、広報普及活動とともに教育研究活動を積極的に推進している。「なゆた望遠鏡」には、可視光撮像装置、可視光分光装置、近赤外撮像装置、可視光ターゲット観測システム、可視同時偏光撮像分光装置などの装置がある。これらの装置は定常的に運用されており、晴れれば毎晩、天文台スタッフが研究観測を行っている。また、光赤外線大学間連携事業にも深く関与し、数多くの ToO 観測をしてきた。

一方で 2013 年秋には「公募観測」制度を開始した。これはプロポーザルを年二回募集し、外部の研究者を含めた審査員のレフェリーをもとに観測時間を割り当てる制度である。兵庫県立大学からの補助により、旅費も一部が支給される。ただし、国立天文台等が供している共同利用とは異なり、観測の遂行を保証するものではない。我々は一年間で 40 夜を公募観測に割り当て、研究観測の多様性を追求してきた。講演では、公募観測を始めとする研究観測の現状を述べ、併せて将来の計画についても議論したい。